



## 東北地方

### 秋田縣道路維持の三重要

點

秋田縣では年々荒廢に赴く道路の維持問題に關し多年工夫を凝らし、研究する所があつたが、此程道路維持座談會を催うし研究する所があつた、其の結果

- 一、從來砂利を路面に撒き散らしさへすればいゝとしてゐたのは間違つてゐる、今は努力關係をも重要視せねばならぬ。
- 一、從來の砂利が大き過ぎたから砂利を細かくしその結合劑をも加へねばならぬ。

一、排水渠を整備せねばならぬ。  
等の三點に意見が一致したので縣ではこの意見を採用今後は各出張所と連絡して道路區間を定め、年度計畫によつてその維持方法を講ずることゝなつた。

## 關東地方

### 茨城縣鹿島灘沿岸道の改良

良

茨城縣下湊——波崎線縣道鹿島郡高松村泉川から同郡息柗村居切地内延長一、〇〇〇米幅員五・五米の道路修築工事はその測量も終つたので愈々遠からず着工するの運

に立ち至つた、開通の曉は鹿島灘沿岸觀光には絶好の道路となるものである。

### 東京府下の凉爽たる散策道

東京市内飛鳥山公園と王子権現の間を流るゝ石神井川沿に全長約三丁幅約四間の散策道路が完成した、音無橋を中心に王子、瀧野川兩區が此地一帯を風致地區と定めんとしておる事として此道路は大なる役割を爲すものである。

### 神奈川縣の公衆道德振興の強調

三年の向ふに皇紀二千六百年の祝典の舉行、萬國博覽會、國際オリンピック大會等の開催及此等に先き立つ世界教育會議を控えて交通其の他公衆道德の極めて缺如せるを遺憾として縣に於て男女青年團、教化團體、婦人會に呼びかけて公德強調を促すこととなつた。特に横濱、箱根、小田原、鎌倉等外國人の來遊多き地方には左の如き目標で宣傳に努むることとなつた。

A、お互に親切を盡しませう（土地不案内

の人に特に注意する、老幼者をいたはる混雑の際はお互に譲り合ふ)

B、道路、公園、河川、車内等を綺麗に致しませう(痰唾を猥りに吐かぬこと、紙屑物等は所定の場所にする、その他公衆の迷惑になる行ひを慎む)  
C、交通に注意しませう(左側を通行する歩道を歩む、信號は必ず守る)

## 北陸地方

### 石川縣下小松町梯大橋の完成

石川縣能美郡小松町地内梯川に架する梯大橋は工費三萬二千圓を以て延長七四・五二米幅員五・六五米鐵筋コンクリート構拱橋梯大橋を架橋中であつたが見事に竣工した

## 東山地方

### 長野縣下赤石自動車道の竣工

南アルプスのアルピニストは嬉しは福音として、もたらせらるゝ赤石嶽登山道路、大河原及鹿鹽への自動車は竣工し小澁川の丸木橋も架設せられ、さしもの難路も漸く征服せられた。

### 岐阜縣下山川橋の渡初め

岐阜縣加茂郡内川邊町と上米田村とを結ぶ飛彈川架橋山川橋は日本一の高脚橋として其工事も此程竣工を告げたので七月三日盛大なる渡橋式が舉行された。

## 東海地方

### 静岡縣水都沼津の御成橋の開通

沼津市地内御成橋は數年前から架橋施工中であつたが漸く竣工したので七月一日橋畔で盛大なる開通式が舉行された。

### 愛知縣一宮市の道路舗装

一宮市に於ては三ヶ年繼續事業として工費四十萬圓を以て市道八千間の舗装を計畫し本年度分長良線廣小路間及新柳通本町間四百間の延長工事は着々進捗し、此程出來ることとなつた。

### 三重縣下通學道路の改修

三重縣度會郡神原大字下津浦から木谷に通ずる一里餘の道路は啓發小學校への通學道路であるが神原村では村費三千圓を投じ架迂回路線短縮を計ることとなつた。御木本幸吉氏は工費三分の一を寄附し漸く着工する運となつた。

## 近畿地方

### 兵庫縣六甲縦走路の回復

六甲縦走路は一昨年夏の風水禍に依り大破したか其の復工事は工費六萬圓約二年の日子を費して此程漸く完成を告げた。

### 兵庫縣加東郡上東條村の 道路河川、愛護祭

兵庫縣加東郡上東條村は公共奉仕の美風良俗は全村に洋溢し、實踐躬行を尙ふ平和な郷にて、各教北團體の連絡も至つて密接圓滿を極め、大正十五年道路愛護日を組織し兵庫縣道路共進會に参加、以來十年間優等の成績を持續し本年は道路、河川愛護共に優勝せしを以つて、七月一日を十周年記念日と道路、河川愛護祭を執行、交通の安全災害防止を祈願し併而愛護心の振興を神に誓つて祭典を終了、引續き講演、祝賀會餘興等の催をなし、有意義に終日せり。

- 一、午前六時より全村道路愛護作業を實施
  - 二、午前十一時より小學校講堂に祭壇を設け神官により嚴かに愛護祭を執行
  - 三、午後一時より講演會開催
  - 四、午後二時より祝賀會開催
  - 五、午前八時より活動寫眞會を公開
- 祭典順序
- 一、祭式開始
  - 二、修 祓
  - 三、降 神

#### 四、齋主祝詞

五、齋主玉串奉奠

六、愛護團長玉串奉奠

七、消防組、在郷軍人分會、青年團婦人會女子青年團各代表玉串奉奠

八、村會議員、區長代表玉串奉奠

九、小學校長玉串奉奠

一〇、來賓代表玉串奉奠

一一、昇 神

一二、祭式終了

## 中 國 地 方

### 廣島縣下三分坂縣道の付

#### 替と敷路大峠の改修

廣島縣下福山市と鞆浦とを結ぶ縣道中の最難所三分坂附近縣道の付替工事は愈々着工の運に至つた。三分坂は沼隈郡水谷村連櫛部落から田尻村境に至る蜿蜒三キロに及ぶ坂道で改修は餘り行はず路線を變更して現在の鞆鐵線路に並行する幅員六メートル五〇の直線道路をつくらんとするもので工

費約八萬圓を要する見込みであるなほ備南の箱根大峠として福山市府中間交通の癥をなしてゐる福山市北吉津町から深安郡千田村宇敷路に通ずる延長三十キロの敷路大峠の改修も同時に行はれることになり、縣土木部で設計を終へこのほど本省へ國庫補助申請をなした。

改修は切取りトンネルなどの方法もあるが最も經費のかゝらない方法として舊兩備鐵道跡の廢線地を鐵道省から拂下をうけ改修する豫定で

この二大工事完成の曉には福山を中心とする備南地方の交通に一新紀元を畫するものと期待されてゐる。

### 廣島縣の優良修路工夫選

#### 獎

廣島縣ニ於テハ先年來國府縣道ノ路面改善ニ懸命ノ努力ヲナシ其ノ効果顯著ニシテ縣民ノ絶贊ヲ受ケツ、アリ。

今同之カ第一線ニ活躍セル修路工夫中前年度中勤務ノ成績優良ナル者五拾名ヲ嚴選シ六月十五日ヨリ三日間ニ亙リ各土木出張所毎ニ所轄内ノ修路工夫全員ヲ集合セシメ

縣ヨリ長谷川土木部長佐々木道路課長栗原  
道路技師等出席シ親シク選奨狀及賞與金ヲ  
授與シテ選奨セリ、尙之ノ選奨式ニ際シ鐵  
道省營自動車雲霧線中ヲ擔任セル長谷川小  
六ニ對シ鐵道省出雲今市自動車區長大村普  
一氏ヨリ左記ノ表彰狀及記念品料ヲ贈與シ  
テ表彰スル所アリタリ。

表彰狀

長谷川小六殿

茲ニ陰陽連絡ノ樞要路線タル三次土木出  
張所々管第六號線横谷天狗橋間保守ノ重任  
ニ當ラル、ヤ日夜精勵格勳克ク道路補修ノ  
完璧ヲ期セラレタリ、其ノ成績ハ最近頓ニ  
精彩ヲ放チ交通業者ノ受益洵ニ甚大ニシテ  
等シク賞讃感謝スル所ナリ。仍テ其ノ功績  
ヲ頌シ之ヲ表彰ス。

昭和十二年六月十五日

鐵道省

出雲今市自動車區長

大村普一

優良工夫ニ賞牌授與

廣島縣ニ於テハ道路改良會廣島縣支部ヨ  
リ寄贈ニ係ル賞牌ヲ道路工夫選奨規程ニ  
依リ三回以上選奨ヲ受ケタル左記ノ者ニ修

地方通信

路工夫選奨式當日之ヲ授與セリ。

記

福山土木出張所勤務

桐島長一

道路ニ關スル功勞者ニ感謝狀授與

廣島縣ニ於テハ六月十六日道路ニ關シ功

勞顯著ナル山縣郡壬生町戸主會及比婆郡東

城町栃木順作氏ニ對シ修路工夫選奨式席上

ニ於テ左ノ感謝狀ヲ授與セラレタリ其ノ事

蹟次ノ如シ。

感謝狀

山縣郡

壬生町戸主會

會員一致協力シテ、多年道路愛護思想ノ

普及涵養ニ勗ムルト共ニ道路ノ維持修繕ニ

貢獻セル所尠カラス仍テ茲ニ感謝ノ意ヲ表

ス

昭和十二年六月十六日

廣島縣知事 富田愛次郎

事蹟

山縣郡

壬生町戸主會

一、組織  
大正十四年全町各戸一人宛ヲ以テ設立セ

二、作業方法

毎年總會ニ於テ其ノ年ニ於ケル會員總出

ニ依ル作業實施日並作業ノ計畫等ヲ決定

シ之ニ基キ部内ニ於ケル府縣道並町村道

ノ凹凸ヲ填砂土、砂利ヲ以テ修理シ側溝

ノ清掃雜草ノ除却、小破箇所ノ修繕障害

物ノ除却等ヲナス。

三、成績

昭和十一年及本年度春期ニ於ケル作業ハ

左ノ如シ

昭和十一年四月五日 一日 出役人員 六〇人

自昭和十一年八月二日 二日 出役人員 三六八人

自昭和十一年九月三日 二日 出役人員 三六八人

自昭和十一年四月四日 二日 出役人員 三六八人

自昭和十一年四月五日 二日 出役人員 三六八人

感謝狀

比婆郡東城町大字福代

栃木順作

夙ニ郷土ノ惠福ヲ思ヒ率先シテ多額ノ私

財ヲ投ジ多年道路改良ニ盡瘁セル所尠カラ

ス仍テ茲ニ感謝ノ意ヲ表ス

昭和十二年六月十六日

事蹟

廣島縣知事 富田愛次郎

本籍 比婆郡東城町大字福代  
現住所 兵庫縣武庫郡精送村蘆屋

栃 木 順 作

幼時實業界ニ志シ阪神地方ニ居ヲ移スト  
雖モ常ニ郷土愛ノ念強ク殊ニ最近交通機關  
ノ發達ニ伴ヒ完備セル道路ノ必要ヲ痛感シ  
郷土ノ道路改良ノタメ昭和十一年三月以來  
數次ニ互リ多額ノ私財ヲ附寄シ其ノ額壹萬  
數千圓ニ達シ之カタメ改良ヲ了シタル道路  
少ナカラス郷土人士ニ多大ノ便益ヲ供與セ  
リ

## 四國地方

### 愛媛縣石鎚の明粧登山道 路

愛媛縣では靈峯石鎚への登山道路が餘り  
に貧弱なので名勝面河溪から山頂へ山頂か  
ら更らに瓶ヶ森へと登山道路を開設するこ  
とになりすでに十五萬圓三ヶ年繼續の改修  
案が縣會を通過、目下設計を急いでゐる。  
まづ本年度は七月上旬着工して面河溪關

門前四百メートルの地點から霧迫瀧まで  
三千五百メートルの間を幅二メートルに  
改修、來年度は御來光瀧、三年度は頂上  
まで完成する豫定で第二期計畫として面  
河村笠方から山頂まで一萬九千メートル  
山頂から瓶ヶ森まで一萬二千五百メー  
トル改修し冬期登山者のため山小屋を建設  
する計畫で

完成の曉はスポーツ登山家および面觀光客  
の殺到が豫想されてゐる。

### 愛媛縣下待望の道路改修

#### 路線の決定

愛媛縣下町村待望の單年度道路改修路線  
は左の二十九線と決定したが、工費は十一  
萬五千圓で一線當り約四千圓である（括弧  
内は改修箇所）

△小松―壬川線（多賀村）△新立―新居濱  
線（角野村）△東伯方―宮浦線（盛口村）△  
久方―中山線（中山町）△奈良野―内子線  
（宇和川村）△森山―野町線（大川町）△横  
林―小田町線（惣川町）△菰淵―宇和島線  
（下波村、三浦村）△岩松―宿毛線（御橫  
村）△日土―長濱線（大和村）△浮穴―大

洲線（川邊村）△野村―大洲線（溪筋村）△  
宇和島―中村線（高光村）△中浦―城邊線  
（内海村）△水見港線△龍岡―菊田線（菊  
間町）△北吉井―三好停車場線△北吉井  
村）△宇和間―太浦線（西中島村）△池川  
―小田町線（辻七川村）△久萬―壬生川線  
（川瀨村）△上田渡―中山線（廣田村）△西  
川山―西條線（大保木村）△下組―小田卷  
線（參川村）△大洲―久米線（大洲町）△眞  
穴―三瓶線（眞穴村）△一本―松深浦線  
（一本松村）△下朝―倉丹原線（下朝倉村）  
△宗方―宮浦線（宮浦村）△三坂―松山線  
（坂本村）

### 高知縣下足摺岬觀光道路

#### 開通式舉行

高知縣下の名勝地足摺岬觀光道は前號掲  
載の通り竣工した「岩に荒波足摺岬、岸に  
碎けて五十丈」月は足摺岬にのぼり、七ツ  
七浦出て照らす、太平洋の怒濤に抗し、東  
室戸岬と相對する西土佐の絶景地足摺岬觀  
光地で其の開通式が七月三日舉行された地  
元清水町は歡喜の高調を讚へた、町長の語  
る所縣道清水、足摺線は郡制時代の遺物

昭和二年以來改修は繼續してゐたもの、縣財政の都合上運々として進まず依然羊腸の小徑をたどるといふ慘めまで絶景足摺岬や古刹金剛福寺を有しながらあたかも寶の持ち腐れの觀あり、殊に伊佐、松尾、大濱中ノ濱の四部落五千の住民は文化から取り遺され産業の開發にも一大支障を來してゐたわけだが僅か數ヶ月にして今回の垣々砥々のごときドライブ・ウエーが開通し、地方住民の福利増進はもちろん世に現れなかつた鶴の岬や堂ヶ森岬の景勝も喧傳せられ太平洋に面する一大公園として將來の大きな飛躍を想へば、縣當局の御理解ある御努力に満腔の謝意を表すると同時に清水町のために西土佐のため心から祝福せざるを得ない、町民はこの道路を愛用するとともにさらに伊佐、大谷間および清水港、渡船灣内迂回線の完成を期し産業の促進と教育の振興に心せねばならぬと信ずると景勝地帯を縫ふ觀光道路であるためこの絶佳な風光を車窓から眺め得るやうにしたことで道路は山腹を一定の高度をとつて設けられ、しかも風致を害さぬよう特に注意されてゐる

最も難工事は大濱、松尾の中間にある白

## 地方通信

礁附近から松尾にいたる間ですべて大岩磐で埋もりその切取に難澁を極めた、全道花剛砂礫であるため(地磐が花剛岩)見た目にも氣持のよいドライブウエーとなり本縣にこれ以上のものなしといはれる最初郡道として着工したものが大正十二年度から縣工事となり十三年二月十七日着工以來十二年(實際工事を行つたのは九年で昭和四、七、八、九年度は工事を施行せず)最初からの工費を累算すると九萬五千三十一圓九錢に達してゐる。

## 九州地方

### 福岡縣下産業國道改築の具體化

關門間國道に海底トンネル工事は愈々第一歩を踏み出すこととなつたので六月二十九日和布刈海岸で嚴かな修葺式が行はれたが關門兩港の統一、田浦港編入洞海灣修築等の具現化に伴ないて重工業地方の綜合發展を見るのは當然である内務省で調査の二

大産業國道も實現に向つて歩武を進むることとなつた其の計畫は左の通と傳へらる。  
一、現在北九州を貫通する國道は一本しかないので鹿兒島本線の外側、海岸線寄りさらに一本の國道關門トンネルを抜けた路線が門司市堀川新道から鎮西橋附近で鐵道路線を高架で横斷、大阪商船會社の海岸通に出で、それから海岸線を通り小倉を経て戸畑へ、若戸トンネルをくゞり若松へ、そして折尾で現在の線と結ぶもので特に北九州の工業中心市街八幡を避けてゐること、しかもキロ程が八幡通過の場合とほとんど同一であること、これにより若松が北九州の國道線に乗ることなどが注目される。  
一、門司、博多間を繋ぐ最短線として裏門司から曾根に出で、石原町、直方市を経て博多に至る筑豊地方横斷の新國道、これは北九州を避けて筑豊と關門を結び、しかも博多への最短距離であることは産業國道として非常な期待をかけられてゐり、すでに博多、直方間は大半は工事を終へてゐる。